

1 ICT活用のポイント

- 生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現を目指し、運動やスポーツとの多様な関わり方や個に応じた指導を重視しながら、資質・能力を育むための学習ツールとしてICTを積極的・効果的に活用する。
- 児童生徒が確実に資質・能力を習得するための活動時間を確保しつつ、**ICTを用いて自己の変容や成果の確認ができる活動を学習のねらいに応じて教師が見極め、適切かつ効果的に活用する。**

体育・保健体育において、資質・能力を習得したり向上させたりすることや運動量を確実に確保することは必須条件です。学習の内容に応じてICTの活用方法を考えながら授業を構成していきましょう。

2 実際の活用例

- ・自身の動きを、端末に保存した模範となる動きと比較しながら確認することができる。
- ・自分たちの考えた動き（フォーメーション）ができていないか見直し、修正していくことができる。
- ・自分の動きを**即座に確認し、課題把握することができる。**
- ・自分の過去の記録やデータを**すぐに検索することができる。**
- ・児童生徒が、模範となる動きのビデオや学習カードなどの指導資料を、**自分の見たいタイミングで、何度でも繰り返し確認することができる。**
- ・家庭での自主学習ツールとして、自分の感想を記録すると同時に、友達に対してのアドバイスを書き込むことができる。
- ・児童生徒の記録を教師が確認し、アドバイスを書き込むことができる。



- 個のつまずきの速やかな把握へとつながる。
- つまずきに応じた指導・支援へとつながる。
- 動作確認が即座にでき、効果的指導へとつながる。



3 実践事例の紹介

【小学校・6年・体育・E ボール運動 ネット型「ソフトバレーボール」】

育成を目指す資質・能力

B 1（個に応じた学習）

C 2（協働での意見整理）

攻防するために必要なボール操作やボールを持たない時の動きを理解し、チームの連携による攻撃や守備をするための動きができる。

ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】 タイムシフトカメラ プレゼンテーションソフト

カメラ機能を活用することで、自分たちの動きを即時に振り返り、次の活動に生かすことができる。

学習の流れ

タイムシフトカメラの使い方を知り、実際に撮影してみる。

練習やゲームを行う時に、自分やチームの動きを確認する。

確認したことをチーム内で共有し、次の活動につなげる。

事例の概要

児童の1人1台端末にソフトバレーボールにおいて基本となる技能の動画を貼り付け、視聴させることでレシーブやトス等のイメージを抱かせる。また、体育館壁面に動画で視聴した画像をプリントアウトしたものを掲示し、端末と併用して技能ポイントを可視化する。

タイムシフトカメラを用いることで、自分の動きに対する振り返りやチームの動きの確認を瞬時に行うことができるようにした。

指導者は、児童やチームの動きを撮影し、振り返りの場面において、全体で共有すべき動きを確認するようにした。

【中学校・2年・保健体育・「陸上競技（長距離走）」】

育成を目指す資質・能力

C 3（協働制作）

体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。

ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】 カメラ機能

過去の活動の記録や練習内容、感想、脈拍についてデータを活用し、必要なときに確認ができる。走る様子を動画や静止画で残し確認することで効果的に技能の習得につながる。

学習の流れ

1人1台端末上の学習カードで、前時の振り返りをする。

本時のグループ目標や練習について1人1台端末を使いながら確認をし、入力をする。

1人1台端末を使い動画の撮影やタイムの計測等を行い、グループで課題解決練習をする。

グループでICT等を使いながら本時の振り返りと次回の練習を確認する。

事例の概要

毎回の授業で体調管理、脈拍の測定を行い、1人1台端末に入力を行う。

グループで本時の活動の内容や目標を話し合う際、お互いの記録したデータを活用して行う。

グループ練習では、1人1台端末を活用して走っている様子を撮影したり、記録を入力したり、練習でのポイントを確認したりしながら効率よく効果的な練習を行うことができる。

Webサイトには、上記の実践以外に、次の事例も掲載しています。

○小学校3年・・・カメラ機能や活用した器械運動（マット運動）の実践

○中学校2年・・・カメラ機能を活用した器械運動（マット運動）の実践

